

棚田に吹く風

2022
冬
Winter
季刊

2 特集

棚田を応援する企業・団体

- 6 棚田・里山からのたより
棚田で人をつなぐ、棚田が時代をつなぐ
和歌山県紀美野町 中田の棚田
- 8 フォトエッセイ
原風景よ永遠に
- 9 棚ガール
生きもの屋の里山考
- 10 棚田博士は今日も行く
特別寄稿
棚田博士に聞く
「谷地田は棚田だ」
- 12 読者のひろば
- 14 エコプロ2021レポート
- 15 Project Report

棚田を👍応援する企業・団体

棚田の荒廃に危機を感じた地域の有志や都市住民が中心になって始まった保全活動も、2019年には「棚田地域振興法」が施行され国を巻き込んだ活動に広がってきました。そんな中、社会を第一線で動かす企業や団体の棚田への注目は確実に高まってきています。今号は企業・団体の棚田への応援の形を紹介します。

■全国棚田（千枚田）連絡協議会 団体会員

- ・（一社）地域環境資源センター
- ・（株）むらせ
- ・（株）気象サービス
- ・全農パールライス（株）
- ・（一社）家の光協会
- ・福岡農産（株）

■棚田ネットワーク法人会員

- ・（一社）Plenus 米食文化研究所
- ・（株）成川米穀（「オンラインショップ棚田米百選」）
- ・（株）気象サービス
- ・北部緑地（株）
- ・サージミヤワキ（株）
- ・（株）ひなや
- ・（株）環境指標生物

■棚田の産物を生かす

- ・（株）BEATICE ⇒ 全国各地の棚田米をアイスクリームに！
 - ・（株）高鉾建設 ⇒ 徳島県上勝町の棚田米を日本酒に！
- ※棚田米でお酒を造っている酒造会社はたくさんあります！

■地域の棚田を応援する

- | | |
|-------------|--------------------------|
| ・（株）松和技研 | × 大栗安棚田倶楽部（静岡県浜松市天竜区） |
| ・（株）ウェブサクセス | × せんがまち棚田倶楽部（静岡県菊川市） |
| ・（株）八十二銀行 | × 稲倉の棚田地域振興協議会（長野県上田市） |
| | × 千曲市棚田保全推進会議（長野県千曲市） |
| ・トヨタ紡織滋賀（株） | × 山女原棚田ボランティア委員会（滋賀県甲賀市） |
| ・（株）あぐりきっず | × 山女原棚田ボランティア委員会（滋賀県甲賀市） |
| ・（株）パソナ農援隊 | × 鶴川棚田保存会（滋賀県高島市） |
| ・（株）スノーピーク | × 岩首昇竜棚田（新潟県佐渡市） |

一般社団法人 Plenus 米食文化研究所 × 棚田ネットワーク



当研究所は株式会社プレナスの文化事業の一環として2014年に発足した社団法人です。「米」を中心に日本の食文化の研究、情報発信を行いながら、プレナスのさまざまな文化資産の管理、運用も行っています。プレナスは文化事業の発足にあたって細川護熙氏に絵画制作を依頼しました。それが現在プレナス東京本社に設置してある高さ8m、幅16mの巨大壁画「棚田の四季」です。文化事業のシンボルのテーマが「棚田」ということで、棚田について学び、その素晴らしさを伝えていこうとする活動の中で棚田ネットワークさんのご縁に預かることができました。

西伊豆の石部棚田での一年間の研修はとも印象に残っています。年間を通じての作業に従事させていただき、春先の畔切や夏の草取りはとも大変な作業でした。作業の合間に棚田から見下ろす駿河湾、そしてその先に見える富士山という素晴らしい景色も忘れられません。ひと昔前に思いを馳せると、集落のある麓から200m以上もある勾配差を徒歩で往復していたこと、しかも農具や収穫後は米俵を担いでということ、当時の日本人の身体能力の高さに驚かされます。

プレナスはお弁当や定食を生業とする企業ですので、品質の高い「米」の安定確保は企業活動の大命題です。文化面での支援はもちろん、今年の春から農業事業にも乗り出し、危機にある日本の米づくりの再生にも挑戦しています。一方で日本の米づくりは平野部の広大な圃場だけで行われてきたわけではなく、豊かな自然の中でさまざまな表情を見せてくれる里山の中山間地や谷津田など多様性ある景観も魅力のひとつで、未来に繋いでいきたい日本の宝です。当研究所およびプレナスでは、文化事業のシンボルである「棚田」を日本の原風景と位置付けており、今後もさまざまなかたちで支援を行っていきたく考えています。

(事務局長 八谷中大さん)

(株)松和技研 × 大栗安棚田倶楽部

静岡県浜松市



きっかけは静岡県が呼びかけた一社一村静岡運動です。当社に在籍していた静岡県職員のOBが大栗安棚田倶楽部に応援に行っており、参加しないと声をかけられたのが始まりで、もう10年以上続けています。

社員が実際に行って農作業を応援しています。年に数回は行きます。田植えや稲刈りのほかには草刈りが多いです。人数は、田植えや稲刈りの時は10人ぐらいになります。草刈りは、最初の頃は5〜6人行っていました。場所もそれほど広くないし慣れてきたので、最近は2人ぐらいで間に合うこともあります。社員が家族を連れてきたり、夏には作業が終わった後で一緒に流し素麺をやったこともありました。楽しかったですね。

棚田の保全是難しいところにはさしかかっているように思います。応援しているのはもちろん当社だけではありませんが、以前と比べると参加者が減ってきているようです。前は大学生なども来ていましたが、最近は見かけません。昔のような盛り上がりは今はない気がします。もっといろいろなやり方で活性化できないかとも思うのですが、地元の方も年々歳をとりますし、難しそうですね。

当社はその地域の住民ではないので、できることは限られます。地域の魅力を発信して人を呼び込むことは大切だと思いますが、高齢化して戸数が減ってきているし、外から「ああしろこうしろ」は言えません。農業は補助金を利用することも多いですが、地元にとって申請などの事務作業は大変です。新しい法律ができて、それを利用するところまで行けない。当社も経験があるのでわかります。

棚田の保全是、やはり実際にそこに住んでいる方がどうしたいか、が一番重要だと思います。これからも、求められる間は応援を続けるつもりです。(談)

(代表取締役社長 木俣清一さん)

トヨタ紡織滋賀(株) × ^{あけびはち}山女原棚田ボランティア委員会
滋賀県甲賀市



(写真はfacebook「しがの農業農村」より)

当社は社会貢献に力を入れており、地元で何かできないか探していたときに、山女原の棚田でボランティアを募集していることを知りました。滋賀県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」が始まる2〜3年前のことです。県のプロジェクトが始まったので、そのまま移行し、お付き合いを続けています。

活動は5月、7月、10月の年3回。山女原地区では、稲を作っていない田にクルミの木やひまわりを植えています。クルミは獣害を受けにくいとのこと、5月は草刈りとひまわりの種まき。7月は、ハウスの中で育てたカブトムシを都会の子供たちが来て触って遊んだりするので、その対応のお手伝い。10月はゴミ拾いですね。作業は日曜日を中心、3人〜5人ぐらいで行きます。残念ながら田んぼで米作りの作業をしたことはこれまでありません(笑)。

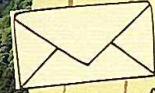
山女原棚田のある地区は会社から車で30分ぐらい。ボランティアに行くまでは行ったことはありませんでした。過疎化でお年寄りが多く、戸数も少ないです。でも、ボランティア作業に行けば温かく迎えてくれて、作業が終わった後はクルミで作ったお菓子など出してくれます。クルミはおにぎりにも入っているんです。意外と合いますよ！

直接的にその地区から通っている社員は居ませんが、親戚がいるとかはあります。地域の人との交流は楽しいですね。

クルミを使った商品の開発などが今どのくらいどの段階まで行っているのか、詳しいことはわかりませんが、まだまだ課題はあるようです。部外者があれこれ口を出すことはできませんが、これからも求められる限り、できる応援を続けて行きたいです。(談)

(管理部人事総務グループグループ長 谷口忍さん)

棚田・里山
からの
たより



棚田で人をつなぐ、棚田が時代をつなぐ

和歌山県紀美野町 中田の棚田

「中田の棚田」とは

紀美野町は、和歌山県の北部に位置し、霊峰高野山を源にもつ貴志川が町の中央を流れ、南部にはススキの草原で知られる生石高原がそびえる自然豊かな町です。

中田の棚田は、生石高原の麓にある小川地域の一画、中田地区に広がる標高約200〜300mの北斜面に位置し、農地面積は約9haです。

紀美野町は、世界遺産である霊山高野山と歴史的につながりが深く町内には数多くの名所旧跡が存在します。中田の棚田も、かつて高野山領下にあります。高野山所蔵の「天野社一切経会段米納日記」には、中田地区から高野山に米が納められていたことが記録されており、少なくとも600年以上前から存在したことが史料に残る、歴史ある棚田です。

また、中田の棚田に生石山の湧水を供給する水路「竜王水」は、全長

600mのうち約200mが手掘りの状態のまま現在でも使用されており、棚田と同様に中世から存在する貴重な農業・土木・文化遺産です。

現在では高齢化や後継者不足から、水稻農家は1名、畑として利用する農家が2名程度いるだけで、棚田の大半は耕作放棄地となりました。

棚田を新たな交流拠点へ

棚田に注目が集まったのは、新たな観光資源を模索していた2019年のことでした。当初の棚田再生活動は、本件を協議していた紀美野町まちづくり推進協議会が実施していました。しかし、同年に棚田地域振興法が施行されたことに伴い、翌年「小川地域棚田振興協議会」を設立し、「小川の棚田再生プロジェクト」を立ち上げました。本法施行は、新たに再生活動を開始するに当たり願っても無い追い風となりました。さらに、2020年



1: 棚田全景 / 2: 再生した棚田 米作りを開始 / 3: 棚田サポーターズとの田植え / 4: サポーターズも子供たちの先生

より地域おこし協力隊も2名加わりました。

活動ヴィジョンは「棚田で人をつなぐ、棚田が時代をつなぐ」。棚田が多様な人々の交流拠点となること、脈々と続いてきた棚田を次世代に残していくことを意味しています。

まずは、耕作放棄地の再生を集中的に行い、現在約2畝を管理しています。小面積ではありますが、2020年には自然栽培(無施肥無農薬)による稲作を開始しました。現在は徐草管理が中心ですが、徐々に耕作面積を増やす予定です。

交流事業として、登録制ボランティア「棚田サポーターズ」を募集



上：棚田deCAMP / 中：棚田deCAMP参加者が作った案山子が稲の成長を見守る / 下左：黍掘りの遺構 竜王水 / 下右：中田の棚田だよ

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 海南市方面からタクシーまたはレンタカー利用がお勧め。最寄り駅はJR紀勢本線海南駅

【自動車】 海南市方面から国道370号線の小川橋南詰交差点を目指す。この交差点から県道180号を約6km南下する

■ お問い合わせ

紀美野町役場まちづくり課
tel.073-495-3462

Homepage



Instagram



し、草刈りや農作業等の定期作業を共に実施しています。町内外から様々な世代が参加し、現在約40名が活動しています。和歌山県主催の「援農ボランティア」を活用し、棚田に関心を寄せる方を一人でも多く受け入れています。

また、棚田 de CAMP、地元小学校の農業体験や収穫した農産物の加工等、棚田との様々な接点を設けることで棚田を中心とした交流人口、関係人口の獲得を目指して活動しています。

2021年10月には和歌山県棚田等保全連絡協議会主催の「棚田・段々畑を核とした地域活性化シンポジウム」が開催され、多くの方が

中田の棚田に訪れ、魅力を伝えることができました。

未来へつなぐ活動へ

棚田の持つ魅力は、先人たちが受け継いできた歴史とその圧倒的景観です。この貴重な歴史的遺産を後世に残していくことが、使命だと考えています。

プロジェクトには、小川地区住民やUターン者等の多彩なメンバーが、棚田を未来へ繋ぐために、各人の視点から活動に参加しています。地域内の耕作者が減少していかなく、地域外部の住民達が棚田再生に取り組む当協議会のような形は、今後とも増えると考えられます。

これからも棚田に想いを寄せる方のアイデアや協力が必要としていますので、中田の棚田でお待ちしています。



水稲2年目 棚田サポーターズともち米収穫

(小川地域棚田振興協議会会長 北裕子)



天空の棚田と呼ぶに相応しい「滝町の棚田」、崩落前の霧氷が付いた冬の勇姿

原風景よ

永遠に

写真・文
伊藤 憲男

岐阜県高山市滝町にある「滝町の棚田」は、「ぎふの棚田 21選」であり、高山市の農村景観重点区域にも指定されています。棚田は標高750〜800㍎の山間集落に広がり「天空の棚田」とも呼ばれています。冬の景観は静かな佇まいと、何だか戦国時代の山城を想像させるような風景が好きて撮影によく出かけていました。

棚田の保全に取り組む地元の方に伺ったところ意外にも歴史は浅く、昭和40年頃、畑であったところを重機で田んぼにして現在のよう棚田景観が出来たそうです。しかし、2020年7月の大雨で棚田が崩落し、土石流となり民家にまで流れ込む災害となりました。幸い住民は事前に避難しており人的被害は無かったです。

来年(2022年)には大規模な修復工事が予定されているということで、「2023年には稲作が出来るのでは」とおっしゃっていました。これほど「天空の棚田」と呼ぶにふさわしい棚田は、他に例を見ません。一日も早く災害前の景観を取り戻してほしいと願うばかりです。

素朴な疑問ですが、頂上の田んぼの水はどうさ
れているのでしょうか。ここはため池も無いし……?

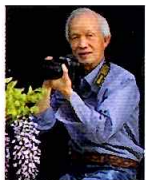
撮影や見学で訪ねることがありましたら地域の方にお聞きしてみてください。ふれあいのきっかけになるかも知れませんね。

崩落した爪痕が残る棚田(2020年12月29日撮影)



伊藤 憲男 いとう のりお

1951年愛知県丹羽郡大口町に生まれる。23歳の時初めてアサヒペンタックスSPFを購入し白黒写真から始め、デジタル写真に至る。1998年5月4日に初めて坂折棚田を訪れ、縁あってその後撮影などで23年間通い続ける。第9回雷フォトコンテストでグランプリ受賞。Nature's Best Photography Asiaフォトコンテストに入選、アメリカワシントン・スミソニアン自然史博物館で開催された表彰式に参加。
出版写真集：『坂折棚田』『坂折棚田物語』『我ふる里に帰る』(発行元：いずれも岐阜新聞社)



棚 ガール Tana Girl

Vol.14

棚田の虜になった女子、通称「棚ガール」

そんな女性を紹介するコーナーです!!

沖澤
鈴夏

宮城県丸森町
地域おこし協力隊
(27歳)



丸森町は2019年の台風19号により甚大な被害を受けました。沢尻棚田もその一つです。近くの山が崩れ一部が土砂で埋まりましたが、棚田を守る地元の方が重機で取り除くなど迅速に対応し、翌年の田植えまでに復旧させました。

私の沢尻棚田との出会いは、2020年春。棚田を守る地元の方と一緒に、「今後どのように棚田を守っていくか」を考える県の事業を通じてこの棚田を知りました。

「美しい景観を次世代にも伝えていきたい」という農家さん方の力強い意志に、心が揺り動かされる日々。私はそれまで仙台にいましたが、元々田舎で暮らしたかったことや、より地域に根差した形でまちづくりや集落支援等に関わりたいため、2021年1月より丸森町を拠点に活動しています。

最近はこの沢尻棚田をフィールドに、地元の高校が授業の一環で体験学習を行っていたり、写真教室やフォトコンテストが実施されるなど、地区内外の方々に棚田を知って頂くチャンスが増えつつあります。担い手や後継者不足等の課題はありますが、まずは多くの方にこの素敵な景観と、それを守り受け継いでいくために日々努力される方々がいることを発信していきたいと思います。あすまやには「棚田交換ノート」も設置しているので、訪れた方はぜひ一言いただけたら嬉しいです♪



生きものの屋の 里山考

写真員 (株) 環境指標生物 高木圭子

春の七草の生き方にあやかる

新年が明けると、どここのスーパーでも春の七草を詰め合わせた七草粥セットが並ぶようになり、この伝統的な慣習も、最近ではむしろ馴染み深くなった気がします。

植物の生活様式の観点からみると、秋の七草はフジバカマやクズなど、土手や茅場のような背の高い

草原で、遠目にも華やかな言わば「草原のスタメン」なのに対し、春の七草はハコベやナズナなど、耕作地やその畦、人家の庭などの

足元の小さな植物が主体です。棚田周辺にも馴染み深いこれらの植物は、多くの植物が賑わう夏場を避け、それらが休眠する冬のさなかにひっそりと思えます。冬場は寒さ厳しい季節である一方、ほかの植物と日差しを奪い合うことも、虫に喰われることも少ないというメリットもあります。日中温度が上がりがやすい

地表近くにそとと葉を広げ、たまの暖かい日の僅かなエネルギーを小さな葉でコツコツと積み重ね、ほかの植物が春の日差しにのびのびと茂り出すより前に花を咲かせ、夏場はなりを潜めます。

ほかの生きものとしてのぎを削るより、厳しい寒さをいなしつつ冬の太陽のささやかな恵みを上手に利用する彼らは「冬雑草」とも呼ばれます。昔の人々が、冬を生き抜く彼らの強さとしなやかに惹かれ、無病息災で豊かな春を迎える願いを七草粥に込めたのも頷ける気がします。

「ごぎょう」の名で知られるハハコグサ



「ごぎょう」の名で知られるハハコグサ

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

特別寄稿

棚田博士に聞く

「谷地田は棚田だ」



多くの人が思い描く棚田は姨捨の田毎の月のような棚田である。田毎の月は善光寺平と呼ばれる長野盆地南縁の地滑り地に拓かれた棚田だ。千曲川の河岸から見上げると堂々たる構えで、甲府盆地のブドウ園になっている大扇状地を想起させるような規模である。逆に棚田の頂部から見下ろすと棚田の先には千曲川の沖積地がひらけ、遠く長野の市街地、そして妙高・斑尾・黒姫・飯縄などの北信五山までが見渡せる大パノラマが展開している。

一方、谷地田は丘陵・台地の細い谷間に拓かれた水田で、関東地方の丘陵地域に多くみられる。山林に囲まれ、狭い谷に拓かれた水田まで森が迫り、閉鎖的で暗く地味な空間である。この光景を見て谷間の水田が姨捨の田毎の月同様に棚田だといっ

ても信じる人は少ないであろう。

私は棚田の研究を始めるに当たり、以後の研究に異論が出ないように傾斜20分の1の斜面にある水田を棚田とするという定量的定義を行った。農水省が2005年の農林業センサスで行っている定義「傾斜地に等高線に沿って作られた水田をいい、田面が水平で棚田に見えることからこう呼ばれる。この場合ほ場の形状は問わない」というような定性的な定義であると、人によって棚田と判断する見方が異なり、混乱が生ずることを懸念したからである。

つまり、わが国の基本的な地形図である国土地理院発行の2万5千分の1の地図を利用、図上地類線で囲まれる水田の部分着色し、その最大傾斜に当たる箇所に定規を

当て、長さ8ミリの部分（実際は200ミリの長さになる）に10ミの間隔の等高線が2本以上あれば棚田と判断する方法であれば、誰が行っても結果は同じになるからである。

しかし、後述する谷地田型棚田が卓越する栃木県茂木地方でも、私これが棚田と定義した後も依然として谷地田とよんでいたようだ。さらに、茂木町の隣まち那須烏山市出身の石塚克彦でさえ、そうは思わなかった。石塚はカントリーミュージカルふるさときゃばんの主宰者であるが、全国棚田連絡協議会を組織、それが運営する棚田サミットを立ち上げた仕掛け人の一人でもあ



なかしま たけひろ

中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

り、また棚田学会設立の基礎を作った棚田ブームを引き起こした最大の功労者である。

石塚が棚田に関心を持ち始めた頃、ふるさとときやばん専属の写真家であった英伸三が「棚田、棚田」と云って騒ぐ石塚に「その棚田を見るには何処に行ったらよいのか」と尋ねると、「それは福岡の星野村だよ」と即答している。成人するまで育つたふるさと烏山の谷地田型棚田（茂木町に隣接し、茂木町石畑と同じく百選の棚田に選ばれている国見がある）を想起しなかったのである。多分、石塚もそれが棚田と思わなかったのであろう。

ところで、農水省の意向がどうであれ、傾斜20分の1以上の斜面にある水田を棚田とする定義は、私が委員を務めた棚田委員会が棚田百選を選定するに当たり、選定基準にしたことにより定着した。それが姨捨のような山地斜面にあらうと、また栃木県茂木町の丘陵間の谷間にある谷地田であらうとも、斜度が20分の1以上であれば同じように棚田とよぶことにしたのである。

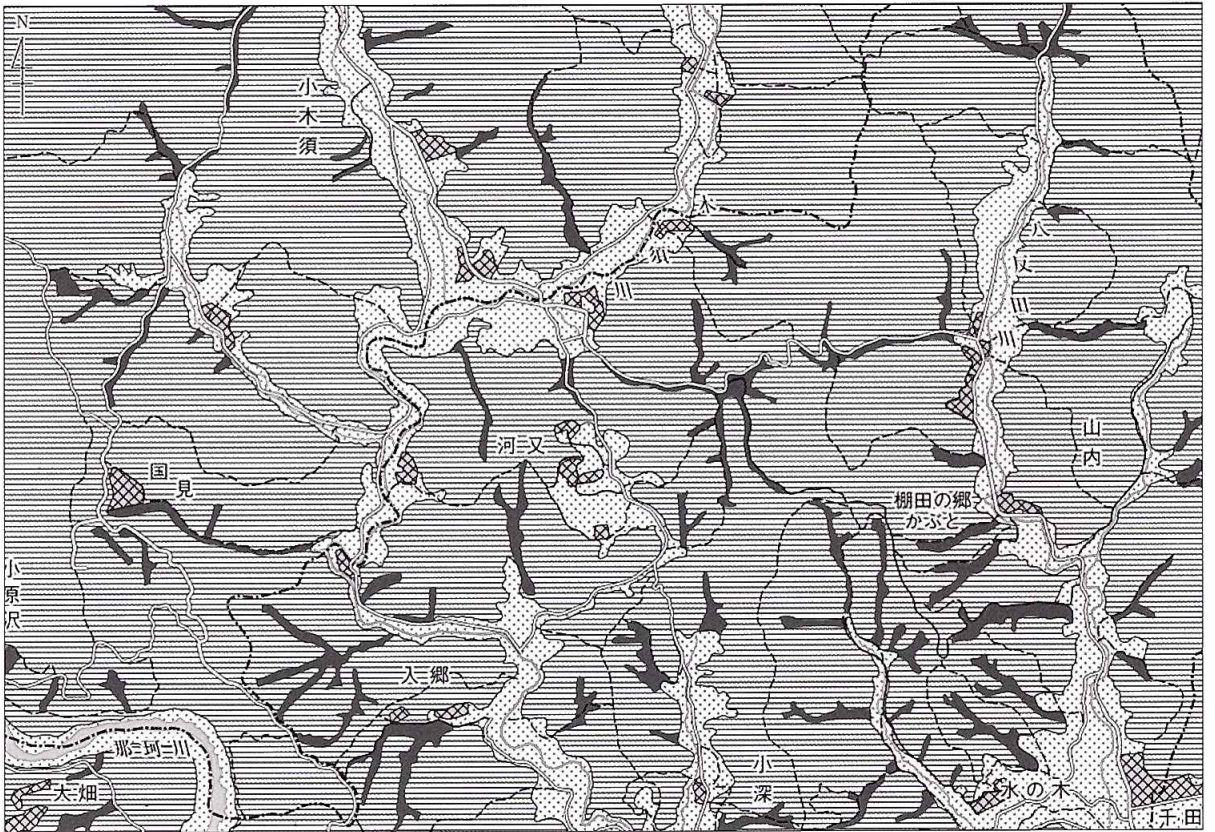
これに目を覚まされたのは図で

紹介する谷地田が卓越する茂木地方の人々であった。入郷・石畑の谷地田が百選に選ばれることにより、はじめて棚田を意識するようになったのである。石畑の椎茸栽培の専業農家で、棚田オーナー制を実施している入郷棚田保全協議会の事務局長塩沢康治さんも、百選に選ばれるまで棚田ではなく谷津田（谷地田と同義）とよんでいたそうだ。

私も図を作成することにより茂木地方がこれほどの谷地田型棚田の卓越地であることに驚かされた。本流の那珂川、その支流の木須川や八反田川がつくる谷底平野、これらに流入する支谷のすべてが谷地田型の棚田になっているのである。



石畑の棚田



栃木県茂木町北部の谷地田型棚田（黒で示す部分）

佐渡島で、棚田に出会いました



岩首昇竜棚田と日本海の絶景(新潟県佐渡市)

私は新潟県新潟市出身で、祖父母の家が佐渡にあります。小さいころからよく遊びに行っていた佐渡が、とにかく大好きです…/地域に関わる仕事がしたいと思い、現在、IT系の企業で、地域活性化プロジェクトの企画を担当しています。

地域活性化プロジェクトの企画検討にあたり、まずは地域の魅力・課題を知りたいと思い、色々な方にお話を聞かせていただく中で出会ったのが、佐渡・岩首昇竜棚田の大石さん・村山さんでした。

お二人から棚田について教えてもらい、「棚田散策ツアー」で棚田を見渡せる展望台や水源となる滝も案内してもらい、棚田の魅力を知りました。昔から岩首に住んでいた人々が車もない時代に苦労して築き上げた歴史があること、直面する課題などについてお話を聞いて、棚田の壮大で美しい景観は、地域の方々の想いで、支えられていることが分かりました。

棚田オーナーの制度にも興味を持ち、新潟県十日町市のまつだいい棚田バンクのオー

東京都足立区 渡邊 葉子



まつだいい棚田バンクの稲刈りイベント(新潟県十日町市)

ナーになり、秋には稲刈りイベントにも参加してきました!晴天の中で、外で農作業するのは気持ちよくて、棚田で初めて出会った参加者の方とお話ができるのも楽しかったです。棚田イベントへの参加をきっかけに、(新潟市出身でありながら)初めて十日町市を観光することもできて、大地の芸術祭のアート作品を巡り、温泉にも入って、非常に充実した旅になりました!

棚田と実際に関わる中で、「日本のピラミッド」とも言われる棚田を未来につなげていくためには、棚田を管理していらっしゃる地域の方々だけでなく、多様な主体を巻き込んだ取り組みが必要になっていることを実感しました。そして、都市部に住む私にも、棚田を守るために、できることがあると知りました。

今後、棚田を仕事の企画にもつなげていけたらと思っています!また、新潟県以外にも、いろいろな地域の棚田に行って、もっと魅力を知っていきたいです。棚田歴はまだまだ浅い私ですが、これからどうぞよろしくお願いたします。

読者のひろば



読者の声募集!



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望・感想やご質問でもOK!(声800字まで、レポート4000字まで、写真も添えて)〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1-181-6 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



旅の思い出

海岸段丘上の棚田 京都府丹後町

福岡県糸島市 宝林寺住職 高山幸典

昭和56年、大学2年生の夏休みに東京から自転車で九州まで走ったことがあった。甲州、木曾を經由し、滋賀から若狭に出て日本海沿岸を走り丹後半島をまわった。

写真が趣味ではあったが、棚田を撮りに行ったわけではなかった。しかし、絶壁(海岸段丘)上に並ぶ棚田がよほど見事にみえたのであろう、貴重な黑白フィルムの1カットとなって残っていた。メモには丹後町遠下とあるが、実際は此代あたりであろうか。百選に選ばれている袖志棚田の少し西のあたりと思われる。(恩師、当NPO代表の中島峰広先生にお会いする前年のこととなります)



棚田の素晴らしさを伝えて15年、 約1000名が集まった棚田フェス

兵庫県神崎郡市川町
永菅裕一

僕が生まれ育った兵庫県神崎郡市川町では、美しい棚田が広がり、とても爽やかな風が吹いています。かすかに土の香りがして、清らかな水の涼しさをまとった、僕の大好きな市川の風です。2021年10月23日(土)、24日(日)、15周年を記念すべき企画「棚田ラバーズフェス」に約1000人が集まりました。

まだ十代の若者たちは、男女でグループになって、次は何を見て楽しもうかと相談中。

棚田ラバーズフェスは、2007年に美しい棚田を未来の子どもたちにつなげたいと僕が仲間と立ち上げた団体「棚田LOVER'S」(2010年からNPO法人格取得)が主催しています。

皆さんが笑っている姿を見ていると、イベントを開催して本当に良かったと心から思うのです。いつの間にか、僕は泣いていました。僕だけではありません。お客さんたちも涙を流していたのです。僕はもう、胸の底から湧き上がってくる感動を抑えることはできませんでした。頬を熱いものがぼろぼろと伝わり、まるで止まってくれませぬ。来年は5月3日に春の棚田祭り、10月22日、23日に棚田フェスを行う予定なので、ぜひお越しください！



Mail : tanadalove@yahoo.co.jp / Tel:090-2359-1831



棚田くんが行く



著者：永菅裕一
(棚田くん)
1,500円(+税)+寄付
発行所：古民家しろめて
2021年



⇨こちらから購入できます！

兵庫県神崎郡市川町で活動する棚田くん(永菅裕一)の37年前の誕生から棚田と出会うまでの過程、そして、棚田での活動を始めてからの15年間の経緯が収められている。仲間たちと地道に、泥臭く、一歩一歩進めてきた活動の記録や歩みには感動。
年間60プログラムの企画、メディアに170回以上掲載、そして数多くの仲間とともに棚田の素晴らしさを伝え続けてきた汗と涙の物語、その秘訣が今明かされる。あなたも棚田くんの想いを感じてみませんか？

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



新版 土偶手帳 おもしろ土偶と縄文世界遺産



著者：菅田亜紀子
監修：武藤康博
1,500円(+税)
世界文化社
2021年

縄文時代は1万年以上続き、その長い年月の間に気候や地形も変動し、「土偶」は自然の恵み、安産、命の再生などを祈願する目的で作られたといわれています。本書では全国の魅力的な土偶50体を厳選して「唇セクシー」「ウルトラの母」をご紹介します。など楽しいニックネームで紹介。「土偶女子」を自認する著者ができるだけなじみのある言葉で書いています。また、この度世界遺産となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」の楽しみ方ガイドも載っています。土偶の面白さに触れ、縄文時代に思いをさせてはいかがでしょうか。

棚田へおいでよ!

コロナ禍で中止となった2020年をのり越え、2年ぶりに開催された「エコプロ2021」。12月8日～10日の3日間にわたり東京ビッグサイトで開かれました。全国から9地域11団体が参加し、棚田の魅力をアピールしました。



エコプロ2021

日本の棚田共同展示コーナー

2021年12月8日(水)～10日(金)

棚田グループ共同出展企画 参加団体



- ↓ 四ヶ村の棚田 (山形県大蔵村)
- ↓ 佐渡棚田協議会 (新潟県佐渡市)
- ↓ 高島市の棚田 (滋賀県高島市)
- ↓ 和歌山県棚田等保全連絡協議会 (和歌山県)
- ↓ 中田の棚田 (和歌山県紀美野町)
- ↓ 高野山・有田川流域世界農業遺産推進協議会 (和歌山県高野町・かつらぎ町・有田川町)

- ↓ 高知県梶原町&千枚田ふるさと会 (高知県梶原町)
- ↓ 東後畑の棚田 (山口県長門市)
- ↓ 稲倉の棚田 (長野県上田市)
- ↓ 全国棚田(千枚田)連絡協議会
- ↓ 棚田ネットワーク

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

新型コロナ禍での体験作業



今年の川代棚田でのお米作り体験は、新型コロナウイルス感染拡大が続かなかでしたが、無事に田植え・稲刈り行事を終えることができました。川代集落のオーナー行事としては、検温・手指の消毒・弁当の個別包装等の感染対策を行ったうえで種まきから田植え・草刈り・稲刈り・脱穀・収穫祭とすべて計画どおり実施され、当ネットワークも一緒に参加できました。

例年に比べ参加者は少な目でしたが、収穫祭では全ての行事をやりきったという地元の農家さんやオーナーさんの満足感にあふれた笑顔が印象的でした。また、今年は川代集落が栄えある棚田学会賞を受賞したこと、当ネットワークの法人会員でもある成川米穀店で川代棚田米の取り扱いを始めるなど様々な動きがあった年でもありました。川代棚田は、全部で50枚ほどの小さな棚田ですが、庄司代表はじめ集落の皆さんの支援に支えられながら来年もお米作り体験を続けていきます。お気軽にご参加ください。

(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

棚田ビオトープの稲刈り



七十二節かみなりすなわちこえをおまむの雷乃 取 声の頃、雷もなく晴天の9月23日、4名で棚田ビオトープの稲刈りをしました。昨年はコロナ禍のため、岐阜県立国際園芸アカデミーの学生と田植えができず、出来たのは稲刈りのみ。今年は田植えも稲刈りも出来ませんでした。そんな中、家族が手伝ってくれました。棚田ビオトープの稲刈りは「雑草」を掻き分けながらの稲刈りですので面倒です。ちょうど終わったころ、恵那市坂折棚田保存会の小森さんが、竹を持って来て小さな稲架を作ってくれました。白色の荷物紐で結び始めましたが、小森さん曰く「(人工的で) マッチしないなあ」とのこと。ちょうど私が持っていた茶色の棕櫚縄を渡したところ喜んで使ってもらいました。

昼になり「なごみの家」近くの大木イロハモミジの木の下に行くと、棚田ネット副代表の杉山さんがお弁当を食べていました。杉山さんは坂折棚田のオーナーで、棚田のすぐ下の農家民宿に前泊し、稲刈りに参加したとのこと。ちなみに、昨年よりオーナー数は増えているそうです。

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

稲刈り～藁ぼちづくり



10月2、3日に稲刈りが行われました。8～9月のコロナの感染拡大を受けて、稲刈りについても一般公募をあきらめ、有志での作業となってしまいました。2日間とも天候に恵まれ、晴れわたった気持ちのよい秋空の下、棚田ネット田としては2年ぶりの収穫の喜びを分かち合いました。

10月26日には、脱穀された粃の引取りと藁の後片付けに行きました。昨年休耕したので地力が回復し、多収量が期待されましたが、結果は例年の10kg減の115kgの収穫でした。また、今年は10年ぶりに「藁ぼち」を集落のお母さんに教えてもらいながら、材料藁100%（紐も使わず）で2基作りしました。来年の藁口用に藁を保存します。今年もコロナ禍でありながら、なんと年間を通した米作りを再開できました。来年は一般参加の体験イベントの再開もできればと願っております。

(高桑 智雄)



使いづらい、だけど美しい！ 始めてみよう『旧暦生活』

月の満ち欠けでひと月を知り、太陽の動きで季節の移り変わりを感じていた「旧暦」での暮らし。旧暦棚田ごよみは、四季折々の美しい棚田の風景とともに、暦で「季節感」を味わうことのできる旧暦カレンダーです。

壁掛けタイプ

A4(縦210×横297mm) ※開くとタテA3サイズ



旧暦がわかる『ミニブック』付いています！



四季折々の棚田風景

二十四節気七十二候雑節を表示

新暦表示もあり！

月の満ち欠けイラスト入り！

注文サイトQRコード



5部セットがお得！贈答用にどうぞ！

¥1,300(税込)

5部セット

¥6,000(税込)

※送料は別途かかります。

ご購入は

TEL. 03-5386-4001 もしくは棚田ネットワークHPから
●お電話受付時間 13:00～17:00 ※土日祝をのぞく

※このカレンダーは、旧暦の元日(令和4年は2月1日)から始まります。新暦表示は令和4年2月1日(火)から令和5年1月21日(土)までです。



わたしたちと『棚田の応援団』、やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になろう!

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

年会費

- 個人会員
 - 維持会員 1口1万円(1口以上)
 - 一般会員 4,000円
 - 応援会員 3,000円
 - 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

- 法人会員(賛助会員) 1口3万円(1口以上)

活動を応援していきます。

編集部から
もうみなさんご存じだと思いますが、1999年に農林水産省が認定した「日本の棚田百選」から20年以上の時を経て、同省が新しい棚田百選の選定を開始しました。その名も「つなぐ棚田遺産」ふるさとの誇りを未来へ」です。
実際、現在の百選は、すでに担い手不足や農家の高齢化などで荒廃をしまつていく棚田もあれば、積極的な保全活動や日本有数の景観を誇る棚田が入っていないなどの問題があります。棚田の認知が一般社会へ広がりがつつある今、ポスト百選が選ばれることは絶好のタイミングなのではないでしょうか。当会も「つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター」に認定されて、この

ホームページのぞき見で!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>



発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565